

# 地域医療連携室 だより

宮城県立がんセンター  
MIYAGI CANCER CENTER

平成19年9月1日発行



発行 地域医療連携室  
TEL (022)384-3151  
FAX (022)381-1169



## 肝疾患と地域連携

宮城県立がんセンター医療局長 小野寺 博 義

肝疾患については既に20年前から地域の主治医の先生との連携のもとに診療を行ってまいりました。肝がんの早期発見のために3ヵ月毎の超音波検査が必須ですが、当時は超音波診断装置が広く普及していませんでした。日常診療は近くの主治医の先生にお願いし、当院では3ヵ月毎に超音波検査等の経過観察を行ってまいりました。その後、早期発見だけでは不十分で、肝疾患から肝がんの発生を防ぐことの重要性が学会で議論されるようになりました。1990年から3年にわたり県南の某町で肝がん予防を目的とした肝疾患診療の地域連携システム構築について検討するために当院・医師会・保健所が共同して「肝疾患予防対策事業」を実施し、その後の診療に役立てております。

グリチルリチンの注射しかなかった時代には、発がん抑制は果たして可能なのかと疑問の声も聞かれました。それがインターフェロンの登場で夢物語ではなくなったのです。インターフェロン治療の成績をもとに1993年頃から、地域の基幹病院と連携してC型肝炎ウイルス陽性者を健診や地元医療機関で拾い上げ、インターフェロン治療を行うことにより肝がんを予防できる可能性が大きいことが学会で発表されるようになりました。当院では現在まで約500人のC型肝炎症例に対してインターフェロン治療を実施し、発がん抑制効果を確認できております。さらに、ペグインターフェロンの登場により、治療症例の50～80%でC型肝炎ウイルスが消失するようになったことから、今後更に肝がんの発生が減少すると期待しております。

日常診療を担って患者さんを日々支えていただける地元医療機関との連携なしには肝疾患の治療は成し得るものではありません。2002年からは「C型肝炎等緊急総合対策」が開始され、各都道府県に肝炎診療協議会の設置が進められております。宮城県においても去る6月20日に肝炎対策協議会が発足し、今後肝炎診療の一層の充実が図られます。このような状況において、今まで以上に地域連携が重要になり、地域連携パスの作成等も必要になると考えられます。

これからも肝がん撲滅を目指して邁進いたしますので、地域の皆様のご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



## 認定看護師の紹介



看護部長 星 しげ子



平成18年8月がん対策基本法が制定され、当がんセンターにおいてもがん医療における専門的知識と技術を有した看護師の活動が必須となってきました。

認定看護師とは熟練した看護技術と知識を有することを認定された者です。

がん看護においては、緩和ケア認定看護師、がん化学療法看護認定看護師、がん性疼痛看護認定看護師、乳がん看護認定看護師、感染管理認定看護師が必要です。

そこで、当がんセンターの認定看護師を紹介します。

### 緩和ケア認定看護師（柏 祐子・油井美紀）

がん患者と家族への支援に関する専門的知識、技術を有し、がんという病気と闘いながらも最後までその人らしい人生が送れるように、生きることを患者さんと共に考え支えていく。また、医療スタッフに対しては緩和ケアの実践に関する指導と相談を行い看護の質向上を目指して活動しています。活動は毎週水曜日です。

### がん性疼痛看護認定看護師（早坂利恵）

がん患者さんの痛みは持続性があり、強い痛みが多く末期がん患者さんの70%は主症状として痛みを訴えると言われています。がん患者さんとそのご家族を全人的にとらえアセスメントを行い疼痛緩和ケアをします。活動としては緩和ケアチームの一員として毎週金曜日のチーム回診をし、病棟からの依頼を受けコンサルテーションを行っています。

### がん化学療法認定看護師（高子利美）

化学療法を受ける患者さんやご家族に対しての、情報の提供と心理的サポートを行います。また、化学療法中の患者さんにはセルフケアの支援や、副作用症状が出現したときには症状のマネジメントを行います。看護師に対しては、実践・指導・相談の役割を担うため研修会なども計画中です。

### 感染管理認定看護師（菊地義弘）

病院内の各部門における感染症発生をサーベイランスし、感染を客観的に調査、把握し各部門との調整などを担っていると共に効果的な感染防止対策をしています。活動は感染対策チーム（ICT）の一員として、毎週1回巡回、相談、指導、教育等コンサルテーションを実施しています。

以上紹介しましたが、5名の認定看護師は多いに活用されることを期待していますので、研修会、コンサルテーション等活動出来るようよろしくお願いいたします。

## 診療科紹介

## 消化器科

診療科長

萱場佳郎

## ■ 当科の概要

消化器科は平成12年11月に新設され、消化器領域悪性腫瘍の診断と治療を主に行っています。入院病床は58床であり、1年間の外来新患数は約1300人、入院患者数は約900人です。

## ■ 当科の特徴

当センターは、下記のような消化器関連学会の専門医研修、指導施設として認定されており、各臓器別担当医が診断と治療にあたっています。

日本消化器病学会  
日本消化器内視鏡学会  
日本超音波医学会  
日本大腸肛門病学会  
日本消化器がん検診学会



肝 臓 : 肝癌治療とインターフェロン治療を中心に行っています。

胆 膵 : 胆道癌、膵癌を中心に超音波内視鏡、管腔内超音波検査、経口胆道鏡、経皮経肝胆道鏡、超音波内視鏡下生検等により正確な質的、進展度診断を行っています。

食道胃十二指腸 : 胃癌の内視鏡治療(EMR,ESD)を中心にステント留置、胃瘻造設、食道静脈瘤硬化療法や胃癌、食道癌に対する化学療法も行っています。

大 腸 : 大腸癌の内視鏡治療(EMR)の他、拡大内視鏡検査、超音波内視鏡検査等により、大腸癌術前のより正確な診断を行っています。

## ■ スタッフ紹介

平成19年8月現在のスタッフは、小野寺博義(医療局長:肝臓)、萱場佳郎(診療科長・医療部長:大腸)、鈴木雅貴(医療部長:胆膵)、鈴木眞一(医療部長:肝臓)、加賀谷浩文(主任医長:大腸)、野口哲也(主任医長:胃)、内海潔(主任医長:胃大腸)の7名です。

## ■ 診療状況

外来診療は月曜から金曜日までの毎日、交代で行っています。

## ■ 診療実績

肝 臓 : 肝癌発癌抑制を目的にC型肝炎に対するインターフェロン治療を約500名に行い、CR症例および著効例においては発癌抑制に成功しています。肝癌に対しては肝動脈塞栓術、PEIT、ラジオ波等による治療を今まで約800名に行い、著明な予後改善が得られています。

胆 膵 : 膵癌、胆管癌の手術率は依然低いいため化学療法が主体となるものの、gemcitabin(GEM)によりQOLを保った外来治療が可能となりました。膵癌stage IVbで従来の化学療法(FP)の50%生存期間163日に対してGEM群205日、IVaでFP群324日、GEM群373日と生存期間の延長を認めています。

食道胃十二指腸 : 内視鏡検査を年間4000件行っています。入院患者の80%を悪性腫瘍が占め、その大部分は胃癌で年間190例を超えています。その内約70例が内視鏡治療の対象であり、他にも腺腫、食道癌等を治療しました。

大 腸 : 年間に内視鏡検査2000件、注腸造影検査300件を行っています。内視鏡治療を年間200例行い、癌40病変の他、カルチノイド、腺腫等を治療しました。

## 外来新患診療体制表 平成19年9月現在

(宮城県立がんセンター)

診療科	曜日	月	火	水	木	金
消化器科		●	●	●	●	●
内科	血液内科	●	●	●	●	●
	循環器科	●		●	●	
	化学療法科	●		●		
呼吸器科		●	●	●	●	●
外科	乳腺科	●		●	●	
	外科	●	●	●	●	●
整形外科			●		●	●
脳神経外科		●		●		●
頭頸科(耳鼻いんこう科)		●	●		●	
形成外科			●			●
婦人科		●	●		●	
泌尿器科		●		●	●	
放射線科		●			●	●
緩和医療科			●	●		●

診療受付時間：午前8時30分～11時00分までをお願いします。  
TEL (022)384-3151(代) FAX (022)381-1169

### センターからのお知らせ

#### ◆宮城県立がんセンターセミナー

##### ●第150回

- 演題：「EGFRと関連遺伝子の異常と肺癌治療」
- 演者：光 富 徹 哉 先生  
愛知県がんセンター中央病院副院長  
胸部外科部長
- 日時：平成19年9月14日(金)  
17:30～18:30
- 場所：宮城県立がんセンター 大会議室

肺癌における上皮成長因子受容体(EGFR)遺伝子の突然変異は、EGFRチロシンキナーゼ阻害剤(TKI)であるゲフィチニブの感受性と強く相関している。EGFR遺伝子変異の種類別の違い、その他のEGFR経路の異常であるKRAS、HER2変異とEGFR-TKI治療の効果の関連も明らかとなりつつある。最近、ほとんど全ての症例に発現する獲得耐性のメカニズムとして、EGFRの獲得性の二次変異に加えてMET遺伝子の増幅の関与が示された。選択を行っていないEGFR-TKIの臨床試験ではnegativeな結果が続いており、遺伝子型によって肺癌TKI治療の個別化を行うことが必要である。



### 交通案内

- J 宮城交通バス** 東北本線名取駅下車、バスまたはタクシーを利用名取駅西口から「県立がんセンター」行きを利用「げんき名取号(愛島線)」
- R 名取市福祉バス** 名取市役所前から「北目上原」行きを利用
- 自家用車** 仙台南インターからは、国道286号バイパス経由県道仙台・岩沼線を利用 (所要時間約15分)

#### —相談支援センターのご案内—

- 受付時間 (面談) 午前10時から12時  
(電話) 午前8時30分から午後5時15分まで
- 面談場所 がんセンター 相談室(1階)
- 電話 (022) 384-3151 (代)

**宮城県立がんセンター**  
〒981-1293 宮城県名取市愛島塩手字野田山47の1  
電話(代表) (022)384-3151 FAX(総務班) (022)381-1168

□ゴマークの3本の柱は「治療、予防、研究」を、上の「まる」は患者さんを表わしています。3本の柱が、患者さんを支えるという意味です。